

かんちけん倶楽部

—NEWS—

■ 黄砂プロジェクト公開講演会を開催しました

2月2日(土)、黄砂プロジェクト公開講演会「鳥取発！黄砂研究の最前線」をとりぎん文化会館第2会議室で開催しました。鳥取大学で現在行っている黄砂に関する研究の中から、モンゴルや中国などの現場調査から見た近年の黄砂多発の原因や、飛来してきた黄砂の人への健康影響などについて講演とパネルディスカッションを行いました。約100名の方に参加いただきましたが、黄砂や大気汚染等に対する市民の関心の高さがうかがえました。また我々の研究の意義を再認識できる良い機会となりました。当日のプログラムは以下のとおりです。

1. 鳥取大学黄砂プロジェクト紹介
プロジェクトリーダー 山中典和(乾燥地研 教授)
2. 近年の黄砂多発の原因 —黄砂発生域で何が起きているのか?— 黒崎泰典(乾燥地研 助教)
3. 黄砂の何が人へ健康影響を及ぼすのか?
大西一成(医学部 助教)
4. パネルディスカッション:
篠田雅人(乾燥地研 教授)、山本福壽(農学部 教授)、
大西一成、黒崎泰典

合わせて、2月1日(金)～5日(火)まで黄砂プロジェクトパネル展をとりぎん文化会館フリースペースで開催しました。このような、プロジェクトの成果報告は今後も随時行ってゆく予定です。

※黄砂プロジェクトの概要は、かんちけん倶楽部 Vol. 12(1)(2012年6月号)をご参照下さい。

<http://www.alrc.tottori-u.ac.jp/japanese/kantikenclub/papers/no.12-1.pdf>



多くの方々に参加していただきました。



パネルで黄砂プロジェクトの紹介をしました。



講演会の演者とスタッフ

■ 平成 24 年度科学技術人材育成補助金「テニュアトラック普及・定着事業」に採択

乾燥地研究センターは、文部科学省の実施事業である平成 24 年度科学技術人材育成補助金「テニュアトラック普及・定着事業」に採択されました。この事業は、若手研究者が自立して研究できる環境の整備を促進するため、文部科学省がテニュアトラック制*を実施する大学等を支援し、テニュアトラック制度の普及・定着を図るもので、本学では初めての採択となります。

この採択を受けて、本センターでは、24 年度国際公募を実施し、平成 25 年 3 月 1 日付けでテニュアトラック教員として岡本昌憲助教を採用しました。

※テニュアトラック制とは：

公正で透明性の高い選考により採用された若手研究者が、審査を経てより安定的な職を得る前に、任期付の雇用形態で自立した研究者としての経験を積むことができる仕組みです。

乾地研のひと（新任者紹介）

〈テニュアトラック助教 岡本昌憲〉

3 月から乾地研に赴任しました。東京都立大学(首都大学東京)、理化学研究所、そしてカリフォルニア大学リバーサイド校と 3 つの研究機関を渡り歩いてきました。所属移動で、4 つの異なる研究室を経験してきて、分子生物学を様々な角度から学んできました。色んな所を転々としてきましたが、専門は不思議と変わっておらず、大学の卒研時代から、乾燥などのストレス応答に重要であるとされる植物ホルモンのアブシジン酸について研究してきました。これまでは、研究室の中に籠もって、分子生物学を中心とした研究を行ってきましたが、乾地研では、フィールドワークを中心とした先生や研究者の方が沢山所属していますので、多くの方々と交流を深める事で、自分の研究をさらに発展させたいと思っています。また、乾地研を支えて下さっている事務の方々と教員・スタッフが非常に親密で良好な関係にあり、このような素晴らしい環境で、自分が研究できることをうれしく思います。乾地研の発展に少しでも貢献できるように研究で頑張りたいと思います。



〈外国人客員教授 パンダ, シュディンドウラ ナス〉

私は PANDA, Sudhindra Nath です。現在は、インド工科大学カラグプル校農業・食品工学部で教授をしております。1978 年以来、インドの地方政府や農業大学に勤務し、現在はインド工科大学で私の専門分野についての教育を学部生や大学院生に行っております。私の専門分野は、水文学的不確実性におけるシミュレーションと最適化技術を用いた総合的な土壌・水資源の計画と管理。東インドの天水農業地帯の持続可能な農業生産のため、雨水の保全と再利用のモデリングと現場実験・調査です。



農家は水路からの限定された水供給と、供給量も水質も不安定な地下水による多様な作物の育成に関心を持っています。そのため、地下水位のシミュレーションと最適化の手法を、農業生産を最大化するためのよりよい作物計画、さらに水路と地下水双方の最適利用配分策定に応用しています。

■ パレスチナを訪問しました

5月7日から17日まで、恒川センター長と藤巻准教授がJICA農村開発部の会津さんとともにイスラエル、パレスチナ、ヨルダンを訪問しました。これは昨年6月のアラブ諸国駐日大使の来訪をきっかけに、パレスチナ駐日大使が当センターによるパレスチナ農業支援への期待を表明したことを受けたものです。現在行われているJICA技術協力現場を視察するとともに先方関係機関との意見交換を行い、協力の可能性と具体的な協力方法を検討しました。写真はナジャフ大学農学部との会合の様子です。地元ニュースでも報じられ、期待の高さがうかがえました。



■ アンズを植えました

3月13日に乾燥地研の環境整備の一環としてアンズの植栽を行いました。アンズの品種はサニーコット、ニコニコット、ハーコットの3品種で、各30本ずつ計90本を、駐車場周辺に植えました。乾燥地研究センターは中国科学院水土保持研究所と黄土高原の研究を10年間続けてきましたが、アンズは乾燥に強く、黄土高原でもよく植えられる果樹です。また、黄土高原には野生種も多く生育しています。アンズは花も美しく、おいしい果実も期待できます。今回植えたアンズを見ながらの花見が楽しみです。



～ミニ砂漠博物館の紹介～

「ミニ砂漠博物館」は、もとは鳥取大学の学生の教育実習用のために作られた施設でしたが、小学校の社会見学や一般の方の生涯学習等に利用されることが多くなったため、近年は休日公開を行って、広く一般の方々に開放しています。

館内には、乾燥地の現状を分かりやすく解説したDVDの上映、研究活動紹介のパネル、乾燥地の生活がわかる家具、衣装、楽器などの展示、サハラ砂漠、タクラマカン砂漠など世界中の砂や植物の種子の展示、顕微鏡による砂観察コーナーに加え、センターの前身である砂丘利用研究施設時代の砂丘農業に関するパネルや「嫁殺し」と呼ばれた灌水桶の展示などもあり、自由に見ていただくことができます。

現在、リニューアルに向けて動き始めています。今後さらにパワーアップしていくミニ砂漠博物館を楽しみにしてください。



モンゴルの遊牧民が現在も利用している移動式住居ゲルの外観(上)と内観(下)。モンゴルの衣装、家具、ストーブ、楽器(馬頭琴)を展示しています。

— 活動報告 —

■ サイエンスカフェ@ALRC (4～6月)

研究する上で感じたこと、普段の生活や海外調査の様子について語り合い情報を共有するための場として、サイエンスカフェを開催しています。4～6月は、以下のようなテーマで行いました。

- 第18回 インドの有害化学物質 —人と動物への影響— 国末達也(農学部) (2013. 4. 10)
- 第19回 アフガニスタン—小麦里帰りプロジェクト 辻本壽 (2013. 4. 24)
- 第20回 トルコの自然と人々 佐野淳之(農学部) (2013. 5. 22)
- 第21回 はじめてのパレスチナ 藤巻晴行・恒川篤史 (2013. 5. 29)
- 第22回 テキサスの侵入林問題 —伐採 or 保全?— 徳本家康 (2013. 6. 12)
- 第23回 小アラル・シルダリア川流域における環境修復シナリオ 北村義信(農学部) (2013. 6. 26)

毎月第2、第4水曜日、17時半より開催しますので、ぜひご参加下さい。詳細ならびに今後の予定はホームページをご覧ください。

<https://sites.google.com/site/luehuaxueyanjiushi/saiensukafe-alc>



いつも、海外調査の折りに買ってきた現地のお菓子、果物、飲み物などを持ち寄り、カフェを行っています。第19回では、アフガニスタンのレーズンやお菓子を皆で食べました。

— お知らせ —

☆ 乾燥地研究センター—一般公開、砂漠博士のご案内

乾燥地研究センターでは、センターの研究活動を広く一般のみなさまにご理解いただくため、毎年一般公開を実施しています。2013年度は8月10日(土)に開催することが決定しました。

当日は、小学4～6年生を対象とした体験型実験イベント「きみもなろう!砂漠博士」、黄砂に関する講演会、アリドドーム等の施設見学、砂丘ナイトツアー、ミニ実験コーナーなどを行う予定です。多くの方のみなさまのご来場をお待ちしております。詳しくはホームページをご覧ください。

<http://www.alrc.tottori-u.ac.jp/japanese/study/dome-2013.html>



☆ イオンモール鳥取北店でパネル展を開催

2013年8月5日(月)～8日(木)にイオン鳥取北店1階で、黄砂研究等を紹介したパネル展を開催します。お立ち寄りの際は是非ご覧ください。

【とっとり乾地研倶楽部の設立趣旨】

砂漠化防止や乾燥地農業について世界的に貢献している鳥取大学乾燥地研究センターは、世界の乾燥地研究ネットワークの中核として学術研究、人材育成に大きな役割を果たしており、地域にとっても世界に誇るべき知的財産です。

そこで、鳥取大学乾燥地研究センターの活動を地域で支え、その研究活動と研究成果を広く情報発信することを通じてこの地域の発展を図るために「とっとり乾地研倶楽部」を設立しました。

発行：とっとり乾地研倶楽部事務局
鳥取商工振興協会 〒680-0031 鳥取市本町3丁目201番地
TEL (0857) 26-6886 FAX (0857) 22-0155